

第 18 回  
レファレンス協同データベース事業フォーラム  
記録集

令和 5 年 8 月

国立国会図書館  
National Diet Library

## — 目次 —

概要		……p.1
オープニングスピーチ		
・ 「専門図書館の魅力を知る」	講師：青柳英治氏（明治大学文学部教授）	……p.2
参加館報告		
・ 国立保健医療科学院図書館サービス室	泉峰子氏	……p.8
・ 公益財団法人矯正協会矯正図書館	吉野ゆかり氏	……p.11
・ トヨタ自動車株式会社トヨタ博物館図書室	小室利恵氏	……p.13
・ 凸版印刷株式会社印刷博物館ライブラリー	阿部麻里氏	……p.17
フリートーク		
登壇者：国立保健医療科学院図書館サービス室	泉峰子氏	
公益財団法人矯正協会矯正図書館	平松智子氏	
トヨタ自動車株式会社トヨタ博物館図書室	小室利恵氏	
凸版印刷株式会社印刷博物館ライブラリー	阿部麻里氏	
コーディネーター：豊中市立庄内図書館	西口光夫氏	……p.22

この記録集は、令和5年3月22日に開催された第18回レファレンス協同データベース事業フォーラムの内容をまとめたものです。当日の配布資料は、事業のホームページ<[https://crd.ndl.go.jp/jp/library/forum\\_18.html](https://crd.ndl.go.jp/jp/library/forum_18.html)>に掲載していますので、併せて御利用ください。なお、登壇者等の所属及び肩書はフォーラム開催当時のものです。

※ 事務局報告は、配布資料をもって記録に代えさせていただきます。

※ 本文中、「レファレンス協同データベース事業」又は「レファレンス協同データベース」を「レファ協」と略している場合があります。

---

## 概要

---

### 1 フォーラムの概要

テーマ：レファ協で出会う専門図書館—そのディープな魅力に迫る—

日時：令和5年3月22日（水）13：00～16：25

参加者：220名（内訳）公共図書館 56名 大学図書館 33名 専門図書館 39名

研究者・学生 17名 その他 57名 登壇者・企画協力員 13名 国立国会図書館 5名

### 2 プログラム

#### (1) 開会挨拶

#### (2) 趣旨説明

#### (3) オープニングスピーチ「専門図書館の魅力を知る」

講師：青柳英治氏（明治大学文学部教授）

#### (4) 参加館報告

① 国立保健医療科学院図書館サービス室 泉峰子氏

② 公益財団法人矯正協会矯正図書館 吉野ゆかり氏

③ トヨタ自動車株式会社トヨタ博物館図書室 小室利恵氏

④ 凸版印刷株式会社印刷博物館ライブラリー 阿部麻里氏

#### (5) 事務局報告「多様な登録データや館種を超えた連携によりレファレンスを解決」

国立国会図書館関西館図書館協力課協力ネットワーク係

#### (6) フリートーク

登壇者：泉峰子氏（国立保健医療科学院図書館サービス室）、平松智子氏（公益財団法人矯正協会矯正図書館）、小室利恵氏（トヨタ自動車株式会社トヨタ博物館図書室）、阿部麻里氏（凸版印刷株式会社印刷博物館ライブラリー）

コーディネーター：西口光夫氏（レファ協事業企画協力員、豊中市立庄内図書館長）

#### (7) 閉会挨拶

## 専門図書館の魅力を知る

明治大学文学部教授 青柳英治氏

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介にあずかりました、明治大学の青柳と申します。本日は専門図書館の魅力を知ると題して少しお話をさせていただきます。よろしくお願いたします。本日は基本的な事柄を中心に、順次お話をしていきたいと思ひます。

### 1. はじめに

このスピーチでは、参加者の皆さんに専門図書館の魅力を知ってもらうため、まず専門図書館の概要と特徴について説明いたします。概要では定義、それから親機関の種類、ひと・もの・かねといった経営資源の状況、そして連携・協力の状況を取り上げます。

特徴では、私の著書で『専門図書館探訪』というガイドブックがありますが、そちらで示した専門図書館の特徴を紹介させていただきます。次に、これらのお話を基に、専門図書館がレファレンス協同データベース事業に参加することの意義を示してみたいと思ひます。

### 2. 専門図書館の概要

続いて専門図書館の概要について話を進めます。専門図書館とはどういう図書館か、その定義を幾つかの用語辞典を用いて確認します。日本図書館情報学会が編集しました『図書館情報学用語辞典』の中では、現象と理論の二つの側面から捉えています。

現象面では、「蔵書の主題範囲と専門性の水準や利用者の限定性<sup>1</sup>」に着目した定義がなされて

きたとしています。しかし、それですと専門図書館よりも主題専門性の高い大学図書館や、利用者の限定性の強い学校図書館との区別が難しくなることを指摘しています。そこで、理論面に着目すると、「事業の執行機関としての組織の業務実施の支援機能として設けられ、組織の構成員に対するサービスを任務とし、組織の経費負担によって維持<sup>2</sup>」される、そういう図書館であるという定義もできるとしています。

また、アメリカ図書館協会の『図書館情報学辞典』では、「組織の目標を追求する上で、そのメンバーやスタッフの情報要求を満たすため、営利企業、私法人、協会、政府機関あるいはその他の特殊利益集団もしくは機関が設立し維持し運営する図書館。コレクションとサービスの範囲は上部もしくは親組織の関心のある主題に限定される。<sup>3</sup>」とされています。

これら二つの辞典の定義を整理すると、次の3点を抽出できます。まず、1点目が主題の範囲が限定的であること。2点目が特定組織、親機関という捉え方をすることが多いのですが、その事業支援を目的としていること。そして3点目は利用者の範囲が限定的であることです。おおむねこの三つの要件を備えたものが専門図書館であると言えます。

次に機関種の話に移ります。専門図書館の設置主体である親機関の種類を、機関種と捉えることができます。ここでは機関種を、専門図書館協議会が発行しているディレクトリーである『専門情報機関総覧』で使用されている機関種を参考に、

<sup>1</sup> 日本図書館情報学会編『図書館情報学用語辞典』第5版,2020,p.135.

<sup>2</sup> 同上

<sup>3</sup> Heartsill Young 編『ALA 図書館情報学辞典』1988,p.132.

七つに区分して見ていきます。

一つ目は「国・政府関係機関」、具体的には国や国立研究開発法人の中に設置された図書館、それに国立国会図書館の支部図書館などが挙げられます。二つ目は「地方議会・地方自治体」で、具体的には地方議会図書室や地方の各種の行政組織の中に設置された図書室などが挙げられます。三つ目は「美術館・博物館」で、具体的にはこれらの中に附設された図書室が挙げられます。四つ目は「大学」で、この場合は総合図書館ではなく、学部や大学院の研究科、それに附属研究所の中に設置された図書室、あるいは医学や薬学などの単科大学の図書館で、特定の主題に特化した図書館が当てはまります。五つ目は「公益法人」で、一般又は公益の社団若しくは財団法人の中に設置された図書館や、図書館自体が、例えば公益財団法人といった組織形態をなす場合です。六つ目は「民間企業」で、その中に設置された情報センターや資料室などが挙げられます。最後の七つ目は「国際・外国政府機関」で、それらの中に設置された図書室などが挙げられます。

次に専門図書館の経営資源について見ていきます。その際、私が2019年11月から2020年1月にかけて実施した、専門図書館における連携・協力に関する質問紙調査<sup>4</sup>で回答を得た機関の属性を用います。この属性を基に、専門図書館の経営資源の状況を捉えてまいります。調査対象は7機関種に附設された1305機関としました。有効回収率は666機関で有効回収率は51.0%でした。

質問紙を回収できた機関の属性について、これから説明します。具体的には、スタッフ数、所蔵図書冊数と資料購入費です。これらは、ひと・もの・かねの経営資源に相当すると考えることができます。

まず、スタッフ数(表1)についてですが、病院を親機関とする専門図書館を除いて、いずれの

機関種も赤字で示した2名から4名が最も多い状況でした。一番下の合計で見ますと267機関で、全体の40.1%を占めていました。

表 1

2. 専門図書館の概要 2.3 経営資源 6						
● スタッフ数 (正規・非正規合計) 単位: 人数、機関数						
機関種	1	2-4	5-9	10-	未記入	合計
美術館・博物館	50	62	45	23	20	200
公益法人	31	63	27	10	11	142
地方議会・地方自治体	36	61	21	2	8	128
国・政府関係機関	9	35	25	11	2	82
民間企業	20	25	5	3	10	63
病院	24	17	0	0	0	41
国際機関・外国政府機関	4	4	1	0	1	10
合計	174	267	124	49	52	666

出典: 発表者が2019.11-2020.1に実施した「専門図書館における連携・協力に関する調査」の有効回答機関(666機関)の属性

次に所蔵図書冊数について見ていきます(表2)。国・政府関係機関と病院を親機関とする専門図書館を除いて、いずれの機関種も赤字で示した1万冊以上5万冊未満が最も多い状況でした。合計では246機関となり、全体の36.9%を占めていました。国・政府関係機関を親機関とする専門図書館は、先程も触れましたが、国立研究開発法人などの研究機関に附設した比較的規模が大きいところも含まれているため、赤字で示した5万冊以上の機関が52機関63.4%を占めて、最も多い状況でした。

表 2

2. 専門図書館の概要 2.3 経営資源 7						
● 所蔵図書冊数 単位: 千冊、機関数						
機関種	-5未満	5上-10未	10上-50未	50上-	未記入	合計
美術館・博物館	40	17	75	52	16	200
公益法人	21	17	58	36	10	142
地方議会・地方自治体	30	11	64	16	7	128
国・政府関係機関	4	4	19	52	3	82
民間企業	12	13	15	12	11	63
病院	14	14	10	2	1	41
国際機関・外国政府機関	3	0	5	1	1	10
合計	124	76	246	171	49	666

出典: 発表者が2019.11-2020.1に実施した「専門図書館における連携・協力に関する調査」の有効回答機関(666機関)の属性

<sup>4</sup> 青柳英治「各館種における専門図書館との連携・協力の実施状況」『図書館界』74(5),2023.1,p.265-284.

最後に資料購入費について見ていきます（表3）。国・政府関係機関と病院を親機関とする専門図書館を除いて、いずれの機関種も赤字で示した100万円未満が最も多い状況でした。合計で見ますと336機関で全体の50.5%を占めていました。国・政府関係機関を親機関とする専門図書館は、先程説明したように所蔵図書冊数が多かったこととも連動して、1,000万円以上の機関が30機関で36.6%となり、最も多い状況でした。以上見てきましたように、専門図書館の経営資源は概して小規模であるということが言えるかと思えます。

表 3

2. 専門図書館の概要		2.3 経営資源					8
● 資料購入費		単位：万円、機関数					
機関種	-100未満	100以上-500未	500上-1,000未	1,000上-	未記入	合計	
美術館・博物館	148	28	4	4	16	200	
公益法人	76	37	8	8	13	142	
地方議会・地方自治体	66	55	2	0	5	128	
国・政府関係機関	22	18	10	30	2	82	
民間企業	18	15	5	12	13	63	
病院	0	3	10	25	3	41	
国際機関・外国政府機関	6	1	0	0	3	10	
合計	336	157	39	79	55	666	

出典：発表者が2019.11-2020.1に実施した「専門図書館における連携・協力に関する調査」の有効回答機関（666機関）の属性

次に連携・協力について見てまいります。専門図書館で扱う主題範囲は限られており、先程説明しましたように、ひと・もの・かねといった経営資源も必ずしも潤沢であるとは言えません。そのため、利用者のニーズに応じて、広範囲に資料や情報を収集し提供する公立図書館などと連携・協力することが考えられます。

先程紹介した専門図書館における連携・協力に関する質問紙調査において明らかとなった専門図書館と他館種、具体的には、公立図書館と大学図書館との連携・協力の実施状況を紹介してまいります。有効回収数は先程も触れたように666機関で、このうち、388機関58.3%で連携・協力が行われていました。ここでは質問紙であらかじめ挙げました12の職務内容のうち、特に実施率の高かった三つの職務を示します。具体的には、レフ

ァレンス質問回答、これは254の専門図書館で行われており、65.5%でした。次に文献複写は234機関で実施されていて、60.3%を占めていました。そして、相互貸借は217機関で行われていて、55.9%を占めていました。このうち、本日のフォーラムに関連する、レファレンス質問回答について、少し詳しく見ていきたいと思えます。

レファレンス質問回答では、連携・協力を実施している254機関のうち、33機関13.0%が都道府県立図書館と連携・協力していました。この33の専門図書館のうち、20機関60.6%が都道府県立図書館から協力を受けているとしていました。また、都道府県立図書館と連携・協力していると回答した専門図書館の内訳を見ますと、議会図書室が22機関66.7%で最も多い状況でした。

次に連携・協力の課題を見てまいります。専門図書館と他館種との課題には、連携・協力を実施する388機関のうち、153機関が自由記入により課題を記していました。それらを整理したところ、各種ルールや規則を整備するなど体制構築の必要性を指摘するところが13機関8.5%ありました。具体的には「現時点では他機関との連携・協力についてのルールが明確になっていないため、取扱いについて整備する必要がある」といった記述が見られました。連携・協力の実施に当たっては、相手先とのルールや規則を取り決める必要があるため、そのような手続が課題の一つになっていると捉えることができます。レファレンス協同データベース事業は、既にそのようなルール等の枠組みができあがっているため、この事業に専門図書館が参加することで、レファレンス質問回答については連携・協力が進めやすくなることも考えることができます。

### 3. 専門図書館の特徴

次に、専門図書館の特徴を挙げてまいります。特徴については、拙著の『専門図書館探訪』を基にお話をしてまいります。この図書は、一般の人た



ちが利用できる公開型の専門図書館 61 館を対象に、各館が提供する特徴的なサービスを写真も含めて 1 館を見開き 2 ページの形で紹介するガイドブックとなっています。

掲載されている専門図書館の紹介を通して得られた専門図書館の特徴、そういった特徴を踏まえた専門図書館活用のコツについても触れております。この図書で記した専門図書館の特徴を 8 点挙げて説明していきます。

1 点目として、親機関の刊行物を収集し公開していることが挙げられます。国立研究開発法人などの政府関係機関や、公益法人などに附設された図書館では、親機関が刊行する研究成果物や調査報告書を収集し、それらをウェブサイトで全文公開する機関も増えています。例を挙げると、海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の機関リポジトリ<sup>5</sup>が挙げられます。JAMSTEC で生み出された、学術雑誌論文、紀要論文、さらに会議発表用資料や図書などの知的生産物を電子的な形態で保存し公開しています。

2 点目はグレイリテラチャーを収集していることが挙げられます。特定分野のパンフレットやチラシ、ポスターなど、流通ルートに乗らない一般に入手困難な資料をグレイリテラチャーと捉えますが、それらの収集に力点を置いています。

例えば、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）の情報ライブラリーが収集する『日本ウーマン・リブ史』原資料が挙げられます。こちらの資料は約 700 点あり、1992 年から 95 年にかけて刊行された全 3 巻からなる資料『日本ウーマン・リブ史』を発行するに当たり収集したビラやミニコミ誌、ポスターなどの原資料となっています。当時の女性たちの熱い息吹を今に伝える貴重な資料と言えます。収集リストはウェブサイト<sup>6</sup>でも確認でき、現物はライブラリーで見ること

とができるようです。

3 点目は、〇〇文庫といった貴重書コレクションが充実していることが挙げられます。寄贈などによって所蔵するまとまりのある貴重書のうち、著作権法に抵触しないものをデジタル化して、それらをウェブサイトで公開するところもあります。

例えば、大倉精神文化研究所の附属図書館がデジタルアーカイブとして公開するタゴール文庫<sup>7</sup>が挙げられます。こちらは、インドの詩聖でノーベル文学賞を受賞した R・タゴールが大倉邦彦邸に滞在した際のお礼として寄贈したもので、R・タゴール自身が書いた著作を中心とするものとなっています。

4 点目として独自に分類体系を整備して図書を排架していることが挙げられます。専門図書館では、特定の主題分野の資料を重点的に収集するので、幅広い主題分野の図書を分類するのに適している日本十進分類法 (NDC) では、きめ細かな分類がどうしても難しくなります。そこで独自の分類体系を整えて図書を排架するところも見られます。例えば、味の素食の文化センターの食の文化ライブラリーの図書分類表が挙げられます。A から H までは食に関する分類で、I から V までは資料の種類—具体的には児童書や外国語図書、レファレンス資料—と形態とで分類体系を構成しています。

5 点目として所蔵資料のアクセス手段の確保に注力していることが挙げられます。専門図書館の中には、一般の利用者が手に取れない閉架式で資料を管理しているところもまだあるようです。そこで、図書や雑誌の所蔵状況を確認できるオンライン目録 (OPAC)、あるいは所蔵雑誌の記事や論文を検索できる書誌データベースを作って、所蔵資料にアクセスしやすい環境を整えています。例えば、阪急文化財団池田文庫の蔵書検索<sup>8</sup>では、図

<sup>5</sup> JAMSTEC 機関リポジトリ <<https://jir.repo.nii.ac.jp/>>

<sup>6</sup> 大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター） <<https://www.dawncenter.jp/librsch/>>

<sup>7</sup> 大倉精神文化研究所 附属図書館「タゴール文庫」

<[https://okuraken-lib.opac.jp/opac/Book\\_list?lno=80&lang=japanese](https://okuraken-lib.opac.jp/opac/Book_list?lno=80&lang=japanese)>

<sup>8</sup> 阪急文化財団 池田文庫 蔵書検索

<[https://ikedabunko.opac.jp/opac/Advanced\\_search](https://ikedabunko.opac.jp/opac/Advanced_search)>

書や逐次刊行物の書誌情報のほか、小林一三、阪急電鉄、さらに宝塚歌劇等に関する雑誌記事索引も収録されています。資料区分の中の雑誌記事索引という項目にチェックを入れ、記事タイトルや著者名等を入力することで結果を得ることができます。

6 点目として、児童生徒向けのサービスも充実していることが挙げられます。この点については、少し意外に思われるかもしれませんが、扱う主題分野にかかわる児童生徒向けの図書を揃えて、夏休みなどにそれらを使って自由研究や宿題に役立つ図書を展示したり、あるいは読み聞かせをしたりしています。例えば、トヨタ産業技術記念館の図書室がこのような取り組みをされています。

7 点目として所蔵資料を活用したイベントを開催していることが挙げられます。所蔵する貴重書の展示会や扱う主題に関わるテーマを設定して、関連図書や解説を記したパネルを陳列したイベントを行うところも見られます。また、親機関が実施するイベントに対して、図書館が関連する資料リストを作って、それを提供して協力することもあります。例えば、日本カメラ博物館のJCII ライブラリーでは、所蔵資料を展示した収蔵資料展を随時開催しているようです。

最後に 8 点目として、利用者同士の交流や学びの場所を提供していることが挙げられます。親機関の研究者や技術者などを、図書館内の施設に講師として招いて、扱う主題分野に関わる講演会やワークショップを開いたり、相互交流や利用者の知識習得の場所を提供したりするところも見られます。例えば、(公財)日本交通公社 旅の図書館が行っている「たびとしよ Cafe<sup>9</sup>」が挙げられます。旅の図書館では図書館という場所を活用して、関係者などに自由な交流の場を提供するため、「たびとしよ Cafe」というイベントを定期的で開催しています。この「たびとしよ Cafe」では、観光研究

者や観光の実務に携わる方々を講師として招いて、この分野に関心のある人たちに参加を呼びかけています。

これまで専門図書館の特徴を挙げてきましたが、専門図書館では特定主題に関わる多様な情報資源を収集・提供し、イベントの開催などを通して、そうした情報資源と外部の利用者とを結び付けていることが分かりました。特に、所蔵する情報資源を基に提供されるレファレンスサービスを活用することで、利用者は専門的かつ正確な情報を得られるということを指摘できるかと思えます。この点については、私が勤務する大学において担当している司書課程の授業で、先程御紹介した拙著の『専門図書館探訪』を使って学生に課題レポートを課したことがあるのですが、そのレポートの中でも、専門図書館のレファレンスサービスに対する印象として次のようなことが記されていました。例えば、「専門図書館のレファレンスサービスを活用することで、インターネットでは絶対に入手できない情報を入手できる」や、「専門的な情報の探し方が分からなくても、レファレンスサービスを使って司書に相談することで、手に入れた情報を探しやすくなる」といった記述が見られました。また、近年のコロナ禍にあっては、一般に公開する専門図書館では、開館時間を短縮するところも見られます。そのため、オンラインレファレンスを行っている専門図書館も幾つか存在しております。

#### 4. レファ協 DB 事業に参加する意義

これまで専門図書館の概要、特徴を見てきましたが、それらを踏まえて、レファレンス協同データベース事業に専門図書館が参加する意義について少し触れてみたいと思います。まず、この事業の目的を確認します。「公共図書館、大学図書館、学校図書館、そして専門図書館等におけるレファ

<sup>9</sup> (公財)日本交通公社 旅の図書館 たびとしよ Cafe  
< <https://www.jtb.or.jp/tabicafe/> >



レンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積し、並びにデータをインターネットを通じて提供することにより、図書館等におけるレファレンスサービス及び一般利用者の調査研究活動を支援すること」です。レファレンス協同データベースには、目的にもあるように四つのデータ（レファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション、参加館プロフィール）が蓄積されています。ここでは専門図書館が他館種や一般の利用者に提供するデータを確認することで、専門図書館がこの事業に参加する意義を示してみます。まず、専門図書館がレファレンス協同データベース事業に参加することで、自館で準備することなく、国立国会図書館が整えたレファレンスに係るプラットフォームを活用できることが挙げられます。そして、このデータベースにこれから説明します各種データを提供することで、一般の利用者に対しても、広くサービスの一部を提供でき、そのことが、親機関に対して自館の存在意義をアピールすることにも繋がっていくと考えられることも参加する意義として挙げられます。

次に、蓄積された四つのデータとのかかわりで専門図書館がこの事業に参加する意義を説明してまいります。第一に自館で所蔵・保有する資料や情報を基に対応した「レファレンス事例」を支障のない範囲で提供することで、その内容を周知でき、また広く活用してもらえることが挙げられます。この事業に参加することで、自館のレファレンス事例を一般公開できることに加えて、参加館のみで共有される他館のレファレンス事例も把握できるので、それが自館のサービスにも役立てられることが挙げられます。第二に「調べ方マニュアル」のデータを提供することで、特定テーマについて自館が所蔵する情報資源を活用した調べ方を広く知ってもらえることが挙げられます。また、

自館が扱う分野の参考図書にはどのようなものがあるのか、そして、それらの使い方などについても周知できます。そのことによって、他館の図書館員のレファレンススキルの向上、あるいは一般の利用者の情報活用能力の向上にも貢献できることが、参加する意義として挙げられます。第三に「特別コレクション」のデータを提供することで、自館が保有する貴重なコレクションの存在を周知できる点も挙げられます。最後に「参加館プロフィール」のデータを提供することで、自館の存在を対外的に広くアピールすることにつながり、自館の利用に結び付く可能性が高まることが挙げられます。

以上、レファレンス協同データベース事業に専門図書館が参加する意義を挙げてみました。これらの中には、皆さんが既に認識されていることも含まれていたかと思いますが、改めて整理した上で指摘しました。

## 5. まとめ

最後にまとめを述べて終わりたいと思います。専門図書館の特徴から言えることは、専門図書館の魅力は、特定テーマについての資料や情報を持っていることだと言えます。そして、それらを基にしたレファレンスサービスは他館種の図書館員、さらに外部利用者には有益なサービスを提供することになると言えます。

レファレンス協同データベースは、そうしたサービスを広く活用してもらえる機会を提供することに繋がると言えるのではないかと、ということを指摘して終わりたいと思います。本日のお話は配布資料に挙げた文献を基に行いました。以上で、私からのスピーチを終わります。御清聴いただき、ありがとうございました。

## 国立保健医療科学院図書館サービス室のレファレンス

国立保健医療科学院図書館サービス室  
泉峰子氏

### 国立保健医療科学院の概要

国立保健医療科学院図書館サービス室の泉と申します。本日は第18回レファレンス協同データベース事業フォーラムにお招きいただきありがとうございます。これから国立保健医療科学院について説明し、それを踏まえて特徴的なレファレンス事例2件について御紹介したいと思います。1例目は、感染対策のためのマスク使用の歴史、主に日本におけるスペイン風邪流行時のマスク着用についての資料が欲しいというレファレンスです。2例目は、当院に研修に来た研修生からの、保健医療分野の文献情報収集をどのようにしたらよいか、というレファレンスです。それでは、国立保健医療科学院の概要からお話しさせていただきます。

国立保健医療科学院は、平成14年に国立公衆衛生院、国立医療・病院管理研究所、国立感染症研究所の口腔科学部が統合され発足いたしました。国立保健医療科学院の母体の一つである国立公衆衛生院は、アメリカのロックフェラー財団から資金援助を受け、公衆衛生技術者の養成機関として昭和13年に設立されました。この年にそれまで衛生事業を管轄していた内務省衛生局に代わり、厚生省が設置されました。現在、公衆衛生院の建物は港区の複合施設ゆかしの杜として利用されており、その中で元図書館があった場所には港区立郷土歴史館が設置され、一般にも公開されています。

公衆衛生院当時の附属図書館の蔵書は、現在の図書館の蔵書の核となっております。国立保健医療科学院図書館の現在の所蔵資料数は約12万冊。

公衆衛生院附属図書館から引き継いだ戦前の統計資料と希少貴重図書220冊のほか、イギリス公衆衛生史コレクション259冊を所蔵しています。

### 国立保健医療科学院の事業について

国立保健医療科学院は、保健医療事業、生活衛生事業、保健医療及び生活衛生に関連する社会福祉事業についての養成訓練、調査研究を所掌しています。所掌に関連する分野は広範にわたり、それに伴い蔵書も幅広い分野に及んでいます。国立保健医療科学院は保健所職員など公衆衛生従事者を対象に様々な研修を行っており、年間修了者数は現在延べ2,000名程度となっています。また、国立保健医療科学院はデータベースを中心に情報提供事業を行っています。厚生労働科学研究成果データベース、特定健康診査や特定保健指導に関するデータベース、臨床研究情報ポータルサイト、健康危機管理支援ライブラリーなどとなっています。

厚生労働科学研究成果データベースは、厚生労働科学研究費補助金による研究成果を公開するために、ウェブ上で閲覧検索できるよう構築したデータベースであり、国立保健医療科学院図書館サービス室が運用し、公開しています。平成10年度以降の報告書が収載されていますが、平成9年度以前の報告書も当館が冊子として所蔵しております。また、公衆衛生についての研究論文発表の場として公衆衛生従事者に最新の情報・知見を届けることを目的とした学術誌『保健医療科学』を刊

行しています。こちらの編集及び刊行についても、図書館サービス室が担当しております。また、国立保健医療科学院図書館は、WHO 世界保健機構のレファレンスライブラリーにも指定されています。ここまでの国立保健医療科学院の紹介となっております。この後、国立保健医療科学院図書館サービス室のレファレンスについてお話しします。

## レファレンスについて

国立保健医療科学院図書館サービス室は、2010年にレファレンス協同データベースに参加しましたが、長い間自館のみ参照の形でレファレンス事例を登録してまいりました。登録事例数は少ないですが、わが国唯一の公衆衛生の専門図書館として特徴あるレファレンス事例が多いと考えております。登録データ数は一般公開が51件、参加館限定公開が2件、自館のみ参照が71件となっております。続いて当館の業務体制ですが、図書館サービス室で主に図書館業務を担当している職員は3名で、そのうち1名が主としてレファ協へのデータ登録を行っています。初めは業務の覚えとして始めたレファ協のデータ登録ですが、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当院が公開している図書、流行性感冒掲載ポスターのカラー画像についての問合せや、その他の感染症にかかわる問合せが増えてきたことから、普遍性があると思われる事例を一般公開していくことにいたしました。

## レファレンス事例の紹介（1例目）

ここでレファ協データベース登録データの例を二つ紹介します。一つ目はメディアからの問合せです。感染対策のためのマスクの歴史、主に日本におけるスペイン風邪流行時のマスク着用などについて資料が欲しい、という内容でした。どうやって一般の日本人にマスクという単語や、その利

用が広まっていったのかなど、写真と画像があるとなおよいということでした。調査をし、大正8年10月配布の「流行性感冒予防心得」には太字で「呼吸保護器」と書かれ、「(「レスピレーター」、又は「ガーゼマスク」ともいふ)」と補記されているということを紹介しました。また、あわせて参考資料として当館に収蔵していた『大日本私立衛生会雑誌』等を紹介しました。こちらの検索にはヨミダス歴史館、国立国会図書館オンライン、それから国立国会図書館デジタルコレクション、また科学院のOPACも参考にいたしました。こちら(図1)が『流行性感冒』の掲載のポスター画像になります。『流行性感冒』は内務省衛生局がスペイン風邪の流行の後にまとめた大部の図書で、当館に所蔵している『流行性感冒』の中のカラーページをポスター画像として提供しております。また、最初の事例で紹介した『大日本私立衛生会雑誌』、大日本私立衛生会というのは、国ではなくて、私立の機関の雑誌ということになるのですが、「大日本私立衛生会よりあまねく全国に配布せる流感予防ポスター」と説明されており、「あなたはなぜマスクをおかけなさらんのです」とマスクを掛けることを推奨しています。また、大日本私立衛生会会頭である北里柴三郎博士によるマスクの使用、予防注射の重要性を訴えかけた建議文についても紹介しました。

図 1

### 流行性感冒(内務省衛生局, 1922.3.) 掲載ポスター画像



## レファレンス事例の紹介（2例目）

次に2例目の登録事例です。当館には、研修のために各自治体から保健所の職員が来院するわけですが、こちらの職員からのレポート作成のためにどのように文献情報を収集したらよいのかという相談です。対面の講義の後、地元に戻った後にレポートのための調査をするということなので、地方の方が地元でどのように文献を集めればよいかについて紹介いたしました。まず、質問者に居住地について確認し、県立図書館が提供する有料データベースによる情報収集を勧めました。次に、無料で利用できるデータベースによる情報収集を紹介しました。有料データベースによる情報収集としましては、医中誌 Web<sup>10</sup>、JDream III<sup>11</sup>、これはJST が作成し提供しているデータベースです、それと最新看護索引 Web<sup>12</sup>を紹介しました。無料データベースによる情報収集としましては CiNii Research<sup>13</sup>、厚生労働科学研究成果データベース<sup>14</sup>、国立国会図書館デジタルコレクション<sup>15</sup>、PubMed<sup>16</sup>を紹介しました。PubMed というのは、アメリカの国立医学図書館 NLM が作成している医学関連のデータベースです。また、『厚生指針』掲載論文検索についても紹介しました。こちらで紹介したデータベースの2番目、厚生労働科学研究成果データベースは先程申し上げたとおり、当室で運用しており、最新の行政課題についての情

報収集に大変便利です。

最後に参考図書を紹介し、居住地の健康医療情報コーナーにあることをお知らせしました。このような文献収集をする際に、公共図書館に設置されている健康医療情報コーナーは大変便利だということをお伝えしました。利用者の方は公共図書館と一口に言っても、市区町村立図書館と都道府県立図書館では役割に違いがあり、蔵書も異なっているということをお伝えしました。都道府県立図書館では医中誌 Web、JDream IIIなど有料データベースを提供していることが多いことを紹介するリーフレットも作成しています。この例に限らず、「このような情報収集方法があることを初めて知りました」、「これらのデータベースなどを紹介したリーフレットを持ち帰り、職場で情報共有したい」などと言われることが多く、このリーフレットは当院研修生に限らず、一般の来館者の方にも喜ばれています。こちらの事例については、特に皆様と共有したいと考え、既に御存じの方が多く事柄とは思いましたが、一般公開事例といたしました。

こちらが私の発表となります。厚生労働省の研究成果関連の調査、戦前、戦後の衛生に関する調査など、どうぞお気軽に当館に御相談ください。御清聴ありがとうございました。

<sup>10</sup> 医中誌 Web <<https://login.jamas.or.jp/>>

<sup>11</sup> JDream III <<https://jdream3.com/>>

<sup>12</sup> 最新看護索引 Web  
<<https://jk04.jamas.or.jp/kango-sakuin/>>

<sup>13</sup> CiNii Research <<https://cir.nii.ac.jp/>>

<sup>14</sup> 厚生労働科学研究成果データベース  
<<https://mhlw-grants.niph.go.jp/>>

<sup>15</sup> 国立国会図書館デジタルコレクション  
<<https://dl.ndl.go.jp/ja/>>

<sup>16</sup> PubMed <<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/>>



## レファ協で出会う矯正図書館—歴史ある魅力をご紹介—

公益財団法人矯正協会矯正図書館 吉野ゆかり氏

### 矯正図書館について

公益財団法人矯正協会矯正図書館の吉野と申します。よろしくお願いいたします。本日は特徴ある資料やレファレンスサービスを中心に矯正図書館について御紹介いたします。矯正図書館の矯正とは、刑務所や少年院などに収容されている人たちの社会復帰に向け、改善更生の働きかけを行うことを意味します。図(図2)に示したものは、昭和11年の横浜刑務所落成記念の文鎮です。

#### 図 2



文鎮の中央部にはオランダ語で「私の手は厳しいけれど、その心は愛に満ちている」という言葉が刻まれています。この言葉は、16世紀末のオランダアムステルダム監獄に掲げられていたもので、収容者への人道的処遇の起源を象徴するものとされています。文鎮は矯正のあるべき姿を現代に伝える貴重な資料として、当館の公式サイトやパンフレットにも使用しています。

矯正協会の前身である大日本監獄協会は明治21年、西欧諸国に見劣りしない監獄とするために、当時の刑事政策関係者や国会議員を中心に設立されました。その後、刑務協会、矯正協会と名を変え、今日まで135年、学術の発展と普及、犯罪防止を目的とし、機関誌や図書の発行、矯正職員のための講習会、矯正施設の収容者に対する支援及

び刑務作業の安定運営への協力等の事業を行っています。

矯正協会の事業の一つである矯正図書館は昭和42年に開館しました。図書館としての歴史は56年ほどですが、資料収集は監獄協会設立間もない明治33年から始まりました。明治44年には収集品を集めた図書参考品室が設置され、その後徐々に拡大、昭和42年の開館を経て、平成14年には新築された矯正協会3階フロアの大部分が図書館に充てられたこともあり、収蔵環境が飛躍的に向上しました。また、平成18年にウェブ上に文献目録を公開するなど整備が進み、今日の矯正図書館に至っています。図書館は専任司書2名で日々の業務を行っています。利用者は刑務所や少年院等矯正施設に勤務する職員に加え、大学の研究者など年間500名ほどです。

### 特色ある資料の紹介

所蔵資料は一般図書約4万冊、逐次刊行物960タイトル8万3,000冊のほか、各矯正施設が発行する広報誌、江戸期の古文書1,000点など多岐にわたっています。江戸時代に使われた手錠や足枷など、文献以外の物資料も当館の貴重な資料の一部です。また、明治10年代に作成された「石川島監獄署景況略図」は、染物や運搬作業に当たる当時の囚人の様子が描かれた畳1畳ほどの絵画です。さらに、各矯正施設の外観写真も多く所蔵しています。例えば、戦犯を収容した巣鴨プリズンの表門の写真です。巣鴨プリズンの建物は現在残っておらず、跡地はサンシャイン60や公園として整備されています。また東京都葛飾区にある東京拘置所の前身小菅刑務所の写真も所蔵しています。小菅刑務所の建物は鳥をイメージさせる外観で中央



の高い塔が首とくちばしを、左右の建物が広げた翼を想像させます。この建物は、100年前の関東大震災直後に造られ、現在も東京拘置所内に残されています。このような写真は、3,500点ほど所蔵しており、施設の歴史や構造を調べるためによく利用されています。

矯正を学問領域として見ると、法律学、刑事政策学の1分野と捉えることができます。矯正が刑務所等の施設内で犯罪者の処遇をする一方、更生保護は社会の中で保護観察官や保護司などが再犯防止のために処遇を行うことを意味します。それぞれの働きかけを施設内処遇、施設外処遇と言いつけたりしています。矯正図書館はこの矯正と更生保護分野を中心に、周辺領域である社会学、教育学、心理学などの分野についても関連する文献を中心に資料を収集しています。資料のうち図書は目次まで、逐次刊行物はそれぞれの論文までデータベースに採録することで検索精度を上げています。

当館は閲覧、複写、レファレンスに対応しています。一部サービスは矯正施設に勤務する職員を中心とした矯正協会会員のみですが、一般の方にもご利用いただけます。さらに、SNSで図書館からのお知らせや刑事政策関連ニュースを発信したり、公式サイトで一部のデジタル資料を公開したりするなど、即時性・利便性を大切にしています。レファレンスは対面での受付のほか、電話・メール・公式サイト専用フォームからも問合せ可能で、この専用フォームを多くの方に利用いただいています。回答に要する時間はおおむね3日程度で、追加調査にも対応しています。

## レファ協への参加について

当館のレファ協参加の経緯、レファレンスの状況について紹介いたします。レファ協には5年前の平成30年から参加しました。それまではレファレンス受付票とマイクロソフト社のAccessで事例

を管理していましたが、整理や蓄積が難しく、十分に活用できずにいました。参加を決めた年は、前年に矯正協会矯正図書館開設50周年の行事を行っており、関連する方々のお話を伺う中で図書館広報の重要性を改めて感じた年でもありました。事務作業の効率化と図書館の広報、また、他の図書館とのつながりを期待して、レファ協への参加を決めました。レファレンスはメール・ウェブフォームからの質問は回答時のメールをそのまま印刷し、対面や電話にて受け付け回答したものはレファレンス受付票に手書きで記入します。この受付票はレファ協の登録項目に沿って設定しており、特に回答プロセスやキーワードなどは後の参考になりますので、詳細に記録を取ります。メールとこの受付票を一緒にファイルし、年に一回程度まとめてレファ協へ登録、登録時の通し番号を紙にも記入することで、データと紙ファイルの紐付けをしています。一般公開については、登録確認作業中に判断しています。一昨年のデータになりますが、年間の登録数は43件、うち32件を一般にも公開しています。レファレンスの内容は、過去の刑務所の場所や構造に関するもの、刑務官や収容者の服装、生活に関するものが多く、映像作品の舞台設定のため、収容者用の布団の柄を知りたいといった事例や、監獄職員だった自分の先祖について詳しく経歴を調べたいといった事例もあります。国立国会図書館デジタルコレクションの全文検索機能を使って回答を得られた事例や、他のレファ協参加館から情報提供を受け解決につながった事例など、面白いレファレンスは幾つもありますが、今回は刑務所の所在地についての事例を詳しくご紹介いたします。

## レファレンス事例の紹介

質問は、大正10年当時の大阪の刑務所の所在地を知りたいというものでした。江戸から昭和期は刑務所の新設や移転廃止などが珍しくなく、一つ

の刑務所の変遷をたどろうとするだけでも、多くの資料を見返す必要がありました。そこで質問を多く受ける東京都・大阪府・北海道について、江戸期以降の刑務所・拘置所の変遷、所在地を整理し、誰でも見られるようにしたのが「刑務所等変遷図」<sup>17</sup>です。各刑務所の記念誌や官報等から情報を集め一覧にしました。この図を見ると、大正10年には分館を含め四つの監獄が大阪府に存在していたことが一目瞭然です。レファ協に登録したデータにも、後にこの変遷図のURLを追記し、現在では司書がレファレンスを回答する際の参考としてはもちろん、研究者にも気軽に利用いただけるツールとなっています。レファレンス事例を適切に蓄積し時に見直すことは、利用者が図書館に求めていることを把握することにもつながります。レファレンスを図書館サービス向上のきっかけと捉え、調査研究活動に役立つ情報をこれからも発信していきたいと考えています。

## 最後に

最後に矯正協会には図書館のほかにも出版事業

に関わる部署がありますので、ご紹介いたします。135年続く当協会の機関誌『刑政』は、刑政編集室の職員が矯正職員などで構成される編集委員と企画を立て、毎月発行しています。『刑政』創刊号は明治21年発行の『大日本監獄協会雑誌』第1号です。矯正研究室では、矯正活動に関する諸課題を研究し、その成果を『矯正研究』という紀要で年に一度発表しています。また矯正職員の職務能力向上のための各種研修教材や一般向け書籍の編集・発行を行っている部署もあり、これら協会内で出版されたものは全て矯正図書館の所蔵資料としてあります。歴史ある『刑政』からはレファレンスの回答を得られることも多く、また研究活動や書籍出版の資料収集のため図書館資料が活用されることも少なくありません。異なる部署ではありますが、互いに資料の共有をしたり、情報交換、連携したりしながら日々の業務を行っております。本日御紹介しました資料は当館公式サイトで一部を公開しております<sup>18</sup>。ご興味がありましたら、矯正協会のホームページ<sup>19</sup>と併せてぜひ御覧ください。以上で矯正図書館の紹介を終わります。御清聴ありがとうございました。

---

## 専門図書館でのレファ協活用の取り組み

トヨタ自動車株式会社トヨタ博物館図書室 小室利恵氏

### トヨタ博物館図書室の紹介

こんにちは、トヨタ博物館の小室と申します。今日は全国の皆さんが参加されるこのフォーラムで、当館の図書室の活動紹介ができることを大変うれしく思っております。短い時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。

トヨタ博物館の所在地は、愛知県名古屋市の東側に位置します、長久手市です。御存じの方もい

らっしゃるかもしれませんが、昨年11月にジブリパークがオープンしたことで話題になった、愛・地球博記念公園の近くに位置しております。博物館を上空から見ると、南側にリニモというリニアモーターカーが走っていますが、こちらを東の方に進むとジブリパークに着きます。トヨタ博物館はクルマ館と文化館の二つの展示館で構成されている博物館となっております。トヨタ博物館のミッションとしまして、トヨタの車だけではなく、

<sup>17</sup> 「刑務所等変遷図」 矯正図書館 HP <<https://jca-library.jp/resources.html#chart>>

<sup>18</sup> 矯正図書館 HP <<https://jca-library.jp/>>

<sup>19</sup> 公益財団法人矯正協会 HP <<http://www.kyousei-k.gr.jp/>>

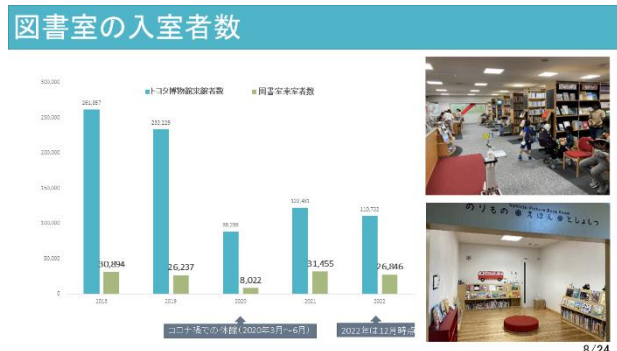
メーカーやブランドを超えたクルマ文化醸成を掲げております。図書室の考え方も同様でして、扱う資料はトヨタのものだけではなく、メーカーやブランドを超えた自動車資料全般を収集しております。先程の上空写真で見ていただいたとおり、トヨタ博物館には二つの展示館があります。南にあります、クルマ館では、欧米日の車両を主に展示しております。北の文化館では、クルマ文化資料室というお部屋に、車以外の、車に関する文化資料を展示しております。こちらの文化館の3階に図書室がございまして、図書室はどなたでも無料で入館ができます。

それでは、図書室の紹介に入ります。改めまして、当館の図書室は自動車の専門図書館になっております。約25万点の蔵書がありまして、このうちの約半分が自動車のカタログです。そのほかは、自動車関連の書籍や雑誌で、蔵書の保管場所は開架閲覧室、閉架書庫、貴重資料室です。

図(図3)は図書室の入室者数のグラフになります。左の青いグラフが博物館全体の来館者数、右の緑のグラフが図書室の入室者数になっております。例年、図書室の利用者が約3万人程度です。このグラフから分かりますことは、コロナ前の2019年は博物館に来館された約1割程度の方が図書室に入室されていたのですが、コロナ禍後の2021年からは急激に2割強にお客様が増えたということが分かります。その要因として考えられることは、館内での誘導もあると思いますが、図書室にはこちらの画面の右下にある乗り物の絵本を多く集めた絵本専用のお部屋があり、コロナが落ち着いた頃からこちらのお部屋目当てに来られる家族連れが目立ってきたというのが一つあります。現在も特に土日はコロナの前よりも、小学校の低学年以下のお子様を連れた家族連れを多く見かけます。家族連れのお出かけ場所として認知されてきたのかなと感じております。ほかにも、一般のお客様による「博物館の図書室おすすめだよ」といったTwitterでのつぶやきなどの効果も考えられ

ます。

図 3



### 特徴的なコレクションの紹介

ここからは図書室のコレクションを二つ紹介させていただきます。まず、1点目は自動車のカタログで約12万5,000点を所蔵しております。カタログの大部分は閉架書庫で保管をしています。トヨタの車は創業時から現在に至るまで全てのカタログを網羅して所蔵しています。また、トヨタの車以外にも国内外の様々なメーカーのカタログを所蔵しておりまして、メーカー別にボックスで管理をしています。国産メーカーだけでなく、欧米各国のメーカーのカタログも多く所蔵しております。残りの1,000点は開架で自由閲覧をしております。こちらのカタログを目当てに来られるお客様も大変多くいらっしゃって嬉しいなと思っております。また、一部は先程ご紹介しました文化館のクルマ文化資料室に展示もしています。テーマを決めて定期的に展示会を行っていきまして、今は、美しい構造図が描かれたカタログを何冊か閉架書庫から探し出して展示を行っています。私が閉架書庫で、日産フェアレディZの構造図を表紙にしたカタログを偶然見つけたのですが、見つけた瞬間にあまりの緻密さに目が離せなくなりまして、それを表紙にしてしまう大胆さに驚いて、この一冊の表紙がきっかけとなり展示を行うこととなりました。また、ほかにも70年代80年代のキャッチフレーズが秀逸なカタログを集めてこれらも展

示を行っています。こういうテーマさえ決めてしまえば、どんどん深く、マニアックにカタログや資料を探し出せるのは専門図書館だからこそその魅力です。

コレクションの2点目は自動車雑誌になります。全部で6万8,000点ほど900タイトルを所蔵しております。主に閉架書庫で保管をしております。探しやすいように右の写真にあるように、棚別のリストと50音順で表記したリストを貼って保管をしております。こちらは貴重資料室というお部屋で、自動車雑誌専用の部屋となっております。19世紀の終わり頃から戦前の貴重な自動車雑誌を、展示と保管を兼ねて収蔵しております。後世の自動車研究にも役立ててほしいという思いから24時間温湿度管理をしております。温度は22度前後、湿度50から60パーセントで管理をして取扱いにも気を遣っております。主に学芸スタッフの調査部屋にはなっていますが、一般の方にも希望があれば事前予約の上公開をしております。そして、自動車雑誌もクルマ文化資料室展示を行っております。世界で初めての自動車雑誌というのが1894年にフランスで創刊されましたが、それを筆頭に欧米日の自動車雑誌の創刊号の表紙を、自動車雑誌年表として展示を行っております。こちらの展示室も24時間の温湿度管理をしております。紙資料には十分注意を払っております。

## レファレンスサービスについて

ここからはレファレンスについての報告をしていきます。私どもは2011年からレファ協に参加していますが、当初の目的は、図書のスタッフのスキルアップや館内スタッフの事例共有など、主に博物館で働くスタッフのスキルアップが目的でした。それが現在までに継続して1,000件以上のレファレンスを登録するに至っております。図書室のスタッフは現在5名いまして、全て委託のスタッフをお願いをしております。私自身は博物館の

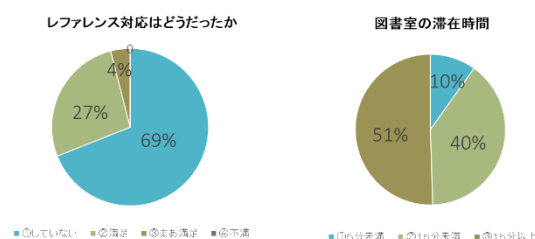
学芸グループに所属しております。図書室のほかに業務があるため、主にレファレンスを受けるのは委託のスタッフをお願いしています。皆さん、本当に意欲のあるスタッフばかりで、昨年、レファレンス対応の強化のためにスタッフ全員と図書室のこれからの目指す姿について意見交換を行いました。そこで共有した「レファレンス対応の目指す姿」が次の3点です。「1. 問合せに対して、タイムリーに質の高い回答ができる」、「2. 利用者（社内外）が求めていることを判断でき、不満を感じさせないコミュニケーションスキル」、「3. 資料の充実、かつ、希望資料がすぐに探せる」。お客様の問合せに対して質の高い回答ができるように、私どもは日々研鑽を行っております。

図(図4)は当館のレファレンス対応に対するお客様の反応です。昨年の4月にたった2日間だけでしたが、アンケートを行いました。回答数は約80名ほどです。問合せをしていないお客様が大半ですが、何かしらスタッフにレファレンスをされた方は、その対応についておおむね満足していただけたということが分かりました。滞在時間については博物館に来たついでにたまたま図書室に入ったというお客様が多い中、約半分の方が15分以上滞在していることが分かり、入室しやすく滞在しやすい雰囲気ができていることが分かりました。このグラフからだけでは、相関関係ははっきり言えませんが、滞在しやすい図書室はレファレンスもしやすいということが言えるのではないかと考えておまして、またお客様にアンケートを取っ

図 4

### お客様の反応

アンケート結果より(2022年4月2日、3日に実施)



て確認しようと思っております。

次に当館でのレファ協の活用についてです。当館ホームページ内にある図書室の紹介ページでは、利用案内にある蔵書検索欄に、レファレンス協同データベースのリンクを張っております。当館の図書室は図書室内のみ OPAC 検索を公開しております、外からは蔵書検索ができないため、よくある蔵書の検索としてレファ協のデータを活用させていただいております。先程のページをちょっと下の方にスクロールしていった画面でもレファレンスサービスの案内をしておりまして、ここでもレファ協の紹介をしております。なお当館では電話でのみレファレンスを受け付けております。

## レファレンス事例の紹介

ここから4点の登録事例を紹介していきます。こちらは一番多い問合せとなっております、〇〇のカタログが見たいというクイックレファレンスです。こういう問合せが来た際は、先程写真をお見せした閉架書庫のカタログボックスにスタッフが直接探しに行ってお客様に提供をしております。こういう全てのクイックレファレンスを登録しているわけではないですが、このようなカタログの問合せをデータベースに登録していくことで、先程ご説明しました OPAC というか、蔵書検索の役割を期待しています。

二つ目は、トヨタ以外のメーカーの資料についての問合せになります。ここにありますが、マツダさんに限らず、自動車博物館という性格上、トヨタ以外の自動車メーカーには展示のための車両を借りたり、歴史の問合せをしたりなど、色んなメーカーさんに協力をいただいております。メーカーさんが博物館の見学にいらっしゃった都度、その担当者が図書室を案内してくれまして、認知を図っていただいております。その成果として、自動車メーカーや車両関係会社からは社史を図書室に置いて欲しいという声をいただいております。最

近も明治時代に創業した自動車関連会社から立て続けに2件、お電話をいただきまして、100年史の寄贈を受けました。自動車資料を置いてもらうなら、博物館の図書室と信頼をいただいているようでうれしい出来事でした。

三つ目は公開レベルの限定についてです。「1903年、第5回国勸業博覧会で、大阪梅田から博覧会会場を送迎していた自動車の名前が知りたい」という学芸スタッフからのレファレンスです。当時の写真から様々な文献を当たって車種を絞ったんですが、特定するには至らなかったため、こちらは自館のみの参照としました。ただ、記録として同じような問合せがあるということを見込んでデータベースに残した事例です。このほかにも自館のみ参照としているレファレンスが多々あります。非公開だからということで、登録をやめてしまうのではなく、こちらの機能を使ってデータに残すことで、後のスタッフがどういう内容は公開を控えようか、外に公開ができないけど、こんな面白いレファがあったのかと何かしらの参考になっているようです。

四つ目は当館ならではのレファレンスを紹介します。「子供の頃に見た車の資料を探しています。」この方の場合、車の特徴をよく覚えていてくださったので、案外早く見つかりましたが、例えば写真だけをお持ちになったりとか、おぼろげな記憶だけだったりとか、お客様によって情報は様々です。お客様から多くの情報を引き出せるかで、対応の時間や回答の質が変わりますので、スタッフは聞き取りメモというものを使い、お客様と対話を行っています。この聞き取りメモはスタッフ間の申し送りの時にも大変役に立っています。こういったレファの資料の探し方としては、トヨタ車の場合だったり、それ以外の場合だったり、また全然違う場合だったりと様々にありまして、スタッフによってレファレンスブックを作ったりして対応していますが、情報が少ない場合は、カタログや雑誌に当たりを付けまして、お客様と一緒に



に探します。レファレンスに丁寧に対応することは、先に紹介しましたレファレンス対応の目指す姿に近づくことができ、お客様の満足度向上だけではなく、ゆくゆくはスタッフのやる気にも繋がります。今後もお客様にもスタッフにとっても居心地の良い図書室を私どもは作っていきたい

と思っております。以上で発表を終わります。また、皆様が愛知県に来る機会がありましたら、ぜひトヨタ博物館と図書室にもお立ち寄りください。お待ちしております。御清聴ありがとうございました。

---

## 印刷博物館ライブラリーのレファレンスとレファレンス協同データベース事例ご紹介 ～ディープ? ニッチ? 日常にある“印刷”のためのライブラリーの事例から～

凸版印刷株式会社印刷博物館 阿部麻里氏

### 凸版印刷株式会社 印刷博物館のご紹介

ただいま御紹介にあずかりました、凸版印刷株式会社印刷博物館の阿部と申します。本日はこのような機会をいただきましてありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

まず、凸版印刷株式会社印刷博物館の紹介をさせていただきます。当館はその名のとおり、印刷をテーマとしたニッチな博物館です。所在地は東京都文京区水道 1-3-3 トップラン小石川本社ビルとなっております。当館は、東京ドームや小石川後樂園、東京大学がある文京区の南部に位置しておりまして、すぐそばを神田川が流れております。川の反対側は新宿区という場所にあります。凸版印刷株式会社という一企業が運営している企業博物館となりますが、企業の歴史を紹介する館ではなく、印刷そのものの歴史や社会的な役割、技術などを広く一般に紹介することを目的に、2000年の10月に開館し、開館20年を経た2020年10月にリニューアルを実施しております。開館から22年間の来館者数は約67万人ほどです。スタッフですが、学芸員が8名、司書が2名、その他印刷工房のスタッフなどもろもろ含めまして運営しています。

それでは当館の施設を簡単に御紹介いたします。

当館は地上1階地下1階からなり、地下1階がメインの展示室となっております、こちらは有料です。プロログというところがありまして、そこを抜けるとメインの展示室常設展となります。常設展では大きく三つのテーマがありまして、日本における印刷の形成・発展の歴史をご紹介している「印刷の日本史」、東洋西洋を問わずに最初期の印刷から現代の情報技術に至るまでの歩みを社会の変化とともに年表で御紹介している「印刷の世界史」、印刷の4版式である凸版印刷・凹版印刷・平版印刷・孔版印刷それぞれの材質や製版方法について御紹介している「印刷×技術」となっております。なお、企画展は基本的に年一度の開催となっております、2022年度は地図と印刷展を開催いたしました。また同じく地下1階には当館のキラークンテンツである印刷工房がございます。印刷工房では、活版印刷の保存と伝承や研究活動を行っております。印刷工房の向かいにあります、印刷工房の欧文書体アーカイブというものに関しましては、印刷工房にある様々な形の書体を時代順で紹介しています。印刷工房では、工房見学ツアー、活版印刷体験、木製手引き印刷機の実演など三つのイベントを曜日ごとに行っております。現在では一部事前予約制となっておりますが、皆様御来館の際には体験いただければと思います。

次に1階の御紹介です。1階は無料でご入館いただけるスペースとなっております、ミュージアムショップ、P&Pギャラリー、ライブラリーがございます。P&Pギャラリーではおよそ年4回企画展を開催しております、現在では世界のブックデザイン2021-22を開催しております。ライブラリーはP&Pギャラリー入っていただきまして、左手でございます。それではライブラリーの紹介に移りたいと思います。

## 印刷博物館ライブラリーについて

印刷博物館ライブラリーは、印刷の博物館の一施設として、印刷と関連する分野の資料を収集保存し、利用者へ提供する役割を担う印刷の専門図書館です。また、博物館のライブラリーとしての役割の面もありまして、収蔵品や関連する資料の収集を担う博物館の図書室、ミュージアムライブラリーとしての役割も持っています。利用者は博物館の来館者層となりまして、未就学児から大人までという形になるかと思えます。展示を御覧になりますと、より深く知りたいということでライブラリーを利用される方もいらっしゃいますが、ライブラリーを主目的としていらっしゃる方は、やはり学生や研究者といった方々が多い傾向にあります。研究分野も印刷のみならず、文字・書体・デザインといった美術関係や、出版史や書誌学というように多岐にわたります。これらは、当館の蔵書構成に由来するものと考えられます。なお、2021年度のライブラリー利用者は243名と決して多くはないかと思えます。次にライブラリーのサービスについてご紹介します。当ライブラリーは、利用料や会員登録などは必要なく、一般公開型となっておりますが、資料の館外貸出しは行っておりません。このほか、複写サービス、レファレンスサービスも実施しております<sup>20</sup>。また、当館ライブ

ラリーは、閉架式書庫を採用しておりますので、利用者は直接資料をブラウジングすることはできませんが、インターネット上で公開しているOPAC<sup>21</sup>では詳細な目次を入力しております、データ上のブラウジングを可能とするように工夫しています。この詳細な目次入力、レファレンス対応時にも効力を発揮しております。当館は企業が運営母体のために著作権法31条外の施設となっております、ここがちょっとネックとなっているところです。

次にライブラリー資料についてももう少し詳細にご紹介いたします。さきほど印刷とその関連分野を中心に収集しているとお話いたしました、具体的な収集分野は、印刷全般、出版、広告、文字、活字、アート&デザイン、版画、インキ、紙、製本、書誌学、印刷物関連、展示資料関連、社史・団体史などです。また、印刷の専門図書館ならではの資料といたしましては、業界雑誌、業界新聞を始めとして、業界団体関連発行物や印刷見本帖などがあります。これらを合わせまして、約7万冊となっております。所蔵資料を大まかに分けますと、図書資料、逐次刊行物、その他印刷史資料となりまして、各印刷会社が発行したカタログ類や見本帖というものになるかと思えます。少し余談になりますが、当館の収集分野の印刷とその関連分野というのはどのようなものかということにつきまして具体的に申し上げますと、印刷イコール紙・本というのはもちろんですが、ポスターや広告物といった印刷物、グラフィックデザイン、食品パッケージを始めとした包装パッケージ類ですとか、ICカードを始めとしたカード類、壁紙や床材など建装材も印刷会社が製造しております。また、鉄道の駅で見かける駅名標というものがございまして、駅名標は、書体が鉄道会社ごとに違うことを御存じでしょうか。書体のデザインも印刷と密接に関係しております。実はこのように、日

<sup>20</sup> 印刷博物館 HP

<https://www.printing-museum.org/guide/floorplan/library/>

<sup>21</sup> 「OPAC」印刷博物館 HP

<http://www.libblabo.jp/toppan/home32.stm>

常生活に印刷はあふれておりまして、当ライブラリーはこれらに関連する文献資料を収集しております。

## レファレンスについて

それでは、当館の資料の中の印刷資料の一例をご紹介します。先程から出ているその見本帖というものの1例としまして、まず、「活版略見本」から御紹介いたします。先程書体の話を少しいたしました。書体、フォントとも言いますが、その見本帖というものは、書体の製造メーカーが発行しているカタログのことです。文字だけでなく、数字や記号なども記載されています。各社書体に違いがありまして、何冊も見比べる方が多い資料となります。次は、東京印刷同業組合が1926年に発行いたしました、『時報』10号です。その名のとおり、印刷業の組合が発行しました機関誌になっておりまして、当時の印刷業界の動きはもちろん、技術面や産業面、業界の人間のことなど、様々なことが記載されておりまして、人物調査や会社調査などにも役立つ資料です。こちらの資料は確か国立国会図書館さんもお持ちではない資料だったかと思えます。ライブラリーのご紹介の最後に少しだけ閉架書庫の内部を御覧いただこうと思えます。書庫内は24時間温湿度管理をしておりまして、紫外線カットの蛍光灯を使用するなど、資料保存・管理には注意を払っています。また、当館印刷の博物館でもありますので、ライブラリーの資料も将来収蔵品となる可能性は否定できず、本も世に出た姿を維持することを第一としております。帯やカバーがついていた資料に関しましても外すことはいたしません。資料に関しては着脱可能なPPカバーをかけて保管・管理しています。業界雑誌などはこのように中性紙の箱に入れて管理しております。保存と活用の両立を図ることも、当館の大切な使命だと考えております。

それではライブラリーのレファレンスについて

の御紹介に移ります。当ライブラリーはレファレンスサービスを実施しておりますが、その申込ルートは主に二つに分かれております。一つは印刷博物館内部のもので、当館の学芸員や工房スタッフからの依頼。もう一つは外部からのものとなりまして、来館、メール、ファックスなどライブラリーに直接依頼がある場合と、印刷博物館宛てに来た問合せ内容についてライブラリーが資料調査を行い、学芸員が回答するという形での補佐をする場合もあります。レファレンスですが、紙のレファレンス申込書にまとめて記録をしております。基本的には、まず申込書の太枠欄に記入いただきます。レファレンスサービスは、インタビューを経て、内容が実は違っていたということがありますので、そういったものは司書が記入していく形で変化させることにしております。こちらの形は基本的に開館間もない頃から継続しております。

## レファ協データベースへの参加について

当館がレファレンス協同データベースに参加した経緯を申し上げますと、先程御紹介しましたように、レファレンスの記録は紙媒体での蓄積でしたが、スタッフ間の情報共有に課題があります。また、検索機能もなく振り返ることが難しいという状況です。レファ協に登録することで、過去に受けたレファレンスのデータベースとして活用できるということがございます。また、正直申し上げまして、印刷博物館自体がまだまだニッチな存在であります。ライブラリーに至っては、更にニッチな存在であることは否定できません。さらに、当ライブラリーは印刷博物館の一施設でありますので、ライブラリー単体としてはホームページを始めとした外部への広報ツールはOPAC以外持ち得ておりません。レファ協は、運営が国立国会図書館ということでもありますので、外部へのPRの手段、ライブラリーの一種の広報ツールとしての期待がありました。

それでは当館におけるレファレンス協同データベースの登録作業を簡単にご紹介させていただきます。メインの担当者なのですが、現在司書1名と入力補助をしてくれているスタッフで対応しております。まず、先程御覧いただきました紙のレファレンス申込書を始めとした一式をレファ協用に制作した FileMaker のデータベースで入力していますが、この時点で入力項目を「質問」、「事前調査事項」、「回答」、「回答プロセス」、「参考資料」、「照会先」、「備考」、「質問者区分」に絞っております。そして、月末に当月に入力したレファレンスをレファ協に自館のみ参照としてアップロードしております。次に、レファ協上で司書はデータの追加や遡及調査などの結果を入力していきます。その後、確認、精査を経て一般公開へという流れをとっています。なお、以前司書が一から全てレファ協に直接入力をしていたんですが、やはり入力の際に少しハードルがあると感じました。現状当ライブラリーは2名体制のため、日常業務を行いつつ、レファ協に注力することは難しい状況にあります。なので今は司書以外、学芸員やスタッフにも協力できるところは協力してもらいまして、FileMaker の方で入力しております。この件でかなりの負担軽減となっております。専門図書館は少人数での運営が多い傾向でありますので、レファ協に注力できないというところは、今回レファ協専門図書館の方々には同意いただける部分もあるのではないかと考えております。

### レファレンス事例の紹介（1例目）

それでは、当館のおすすめ登録データを最後に御紹介させていただきます。まず、どうしてこのあたり印刷博物館の所在地は、印刷業が盛んなのかというレファレンスです。参考資料を御覧いただきますと文京区史などがありまして、本当に印刷の専門図書館なのかという印象を受けるかと思えます。2番目のレファレンスも印刷業が盛んな

理由についてです。2001年の事例なので、開館間もない頃の事例でして、神田川に注目していた質問です。これらで紹介した資料は、印刷に欠かさない紙作りが盛んであったこと、水運の利便性に触れられています。回答に当たっては、地場産業を紹介している文京区のホームページを参照しました。印刷製本業が文京区を代表する産業と紹介されていますが、当館の周りには、印刷や製本の関連会社が多くありまして、当館の周りのみならず、文京区のお隣の新宿区にも大小を問わず印刷会社があります。大手ですと文京区内には共同印刷さん、新宿区ですと大日本印刷さんがあります。共同印刷さん、大日本印刷さん、そして弊社の社史を見ても、なぜこの地域を選んだのかについて明確な記述は現状見つけられておりません。最初に御紹介したレファレンスの参考資料に文京区の区史ですとか、文京区の副読本もあるんですが、こちらでも明確な記述はございません。文京区と印刷業のレファレンスは先に御紹介した2例以外にも、自館のみ参照としている事例があり、さらに今年も一件受けております。大人や子供もありまして、子供さんですと自由研究ですとか、多分社会科の授業での調べ学習であろう小学生からも受けています。文京区には、大学や出版社といった印刷業との結び付きが強い業者が多いこと、先に御紹介したように、文京区の神田川流域、音羽流域とも呼ばれるのですが、そちらで紙漉き業が盛んであったこと、今の共同印刷さんの前身である博文館の存在など、いろいろな複合的な要因があるだろうとっております。土地柄企業柄当館ならではの質問ではあるのですが、明確な回答が見つけられず、当ライブラリーとしては一番聞かれるけれども回答が難しいレファレンスとなっております。こちらに関して助言をお持ちの方はぜひコメントをお寄せください。

### レファレンス事例の紹介（2例目）

次のおすすめ登録データです。片仮名の「へ」と平仮名の「へ」は一体何が違うのか知りたいというものです。まず、図（図5）をご覧ください。左側が当館の印刷工房のスタッフが実際に活字で組んだ「へ」、それを印刷したものが右側の「へ」です。上と下、どちらが片仮名で平仮名かお分かりになりますでしょうか。正解はですね、上が平仮名、下が片仮名となっております。なお、おまけでその下に、「辺」という字で小さいルビの活字を組んでもらっております。こちらもすごく小さいのがお分かりいただけるかと思えます。

図 5



こちらのレファレンスはレファ協公式ツイッターでも御紹介いただいたので、御存じの方もいらっしゃるかと思いますが、当館で一番バズったレファレンスです。回答の詳細や回答がどういったものなのかなどは後ほど御確認いただければと思いますけども、こちらのレファレンスが人気の理由はこちらかなというところが、回答欄にあるベテランの活版職人のスタッフの一言です。当ライブラリーは博物館の一施設でもありますので、こういった文献以外のものが情報として出せるものが一つの強みであるのかなと思っております。

### レファレンス事例の紹介（3例目）

三つ目ですが、当ライブラリーは本関係、製本、装丁関係についてのレファレンスも多く受けてお

りましてその中から本のカバーはどうして付いているのということです。質問者が自由研究中の小学校低学年のお子様でして、自分で色の退色を保護するためという仮説を立てておりました。その点を踏まえて、かつ小学生にどうやって伝えるのかを意識して回答した例になります。本人が仮定として挙げました光による退色については、同じ資料で、蛍光灯下で保管した資料と紫外線カットを施した書庫で保管した資料との見比べをしてもらいました。また、文献調査の結果、本の保護、デザインの2点というところがありました。質問者が小学校低学年だったことを踏まえて、文献紹介だけではなく、本を体に、カバーを洋服に例えて説明をするということを行いました。専門図書館は敷居が高いというイメージをお持ちの方もいらっしゃるかと思いますが、当館は幅広い方に利用していただきたいと思っておりますので、どんどん活用していただければと思います。どなたでも大歓迎です。

### 最後に

最後になりますが、当館のようなニッチな館におきましては、レファレンス協同データベースは情報発信の強力なツールとなっております。認知されるきっかけともなっております。続けるには正直、努力が必要で、どこまで頑張るのかというところも課題がありますが、頑張りすぎない妥協が鍵なのではないかなと思っております。実際レファ協を見ますと、情報を提供してくださっている館があると同時に、情報を利用してもらうなど実感をしております。利用したい、利用してほしい、という思いの仲介役がレファレンス協同データベースであってほしいなと思っております。当館の御紹介を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。



登壇者：泉峰子氏（国立保健医療科学院図書館サービス室）、平松智子氏（公益財団法人矯正協会矯正図書館）、小室利恵氏（トヨタ自動車株式会社トヨタ博物館図書室）、阿部麻里氏（凸版印刷株式会社印刷博物館ライブラリー）  
コーディネーター：西口光夫氏（レファ協事業企画協力員・豊中市立庄内図書館長）

**西口** 今回コーディネーターを務めさせていただきます豊中市立庄内図書館の西口です。よろしくお願いたします。皆さんの丁寧な発表を聞かせていただいて、私は公共図書館ですが、登壇者の皆さん、パスファインダーなどきっかけをつかめるものをいろいろ作り、発行物を出しているという図書館もあるということで、私たちとは少し違うなということを感じました。

### 独自のコレクションについて

**西口** 皆さんの話を聞いていて、発表がほとんどレファレンス事例の紹介ということでした。オープニングスピーチの青柳先生のお話にもありましたが、やはり専門図書館の強みというのは、独自の資料群じゃないかなと思います。今から一人ずつに伺っていきますが、今回ちょっと緊張して伝え切れなかったということや、コレクションの話はしっかりできていなかったところを、自己紹介も含めてお話しいただければと思います。それでは、発表順にまず泉さんお願いたします。

**泉** はい、コレクションということですがとさんざんアピールしました、厚生労働科学研究成果データベースにまつわる厚生科学研究報告というものが、厚生省の時代から補助金を出して行われています。その報告書につきましては昭和26年度のものからかなりそろっております。もちろん無いものもあるとは思いますが、厚生労働

省の研究報告書で困ったことがあったら、ぜひ当館にお尋ねください。

**西口** ありがとうございます。では矯正図書館の平松さんお願いたします。

**平松** 報告ではレファレンス事例だけを御報告いたしましたでしたが、それ以外に調べ方マニュアルを1件登録しております、海外の矯正事情を知りたいということで、海外のサイトを御紹介している調べ方マニュアルを登録しております。ただ、特別コレクションはまだどのようにアップしていいものか、私自身が利用しきれていないので、他館のデータを今後研究して登録していきたいと思っております。

**西口** ではトヨタの小室さんお願いたします。

**小室** はい。特別コレクションということで、先程御紹介させていただいた貴重資料室というのが博物館にあるのですが、そこに自動車雑誌を古いものから保管しております。イギリスで『Autocar』というものが1895年に創刊されて、現在も続いている唯一の自動車雑誌なのですが、創刊号から現在まで所蔵しています。あとは自動車雑誌ではないですが、昔、自動車は上流階級のある程度お金を持っている方でないと乗れなかったのも、そういった当時の風俗とか、車に乗っていた当時の人々の知識とかを知るために、1843年に創刊されたフランスの『L'Illustration』や、アメリカの『The Saturday Evening Post』などもコレクションとして持っておりますので、自動車を広く深く調べたい方にとっては、お宝のような部屋になっているので

はないかなと、いつかそういうコレクションを公開できたらいいなと思っております。

**西口** ありがとうございます。それでは印刷博物館の阿部さんをお願いします。

**阿部** 印刷博物館ライブラリーは特別コレクションというものはないですが、印刷の業界雑誌をやはりたくさん集めているところに特徴があるかと思えます。先程御紹介した『印刷雑誌』という明治から始まっていて今も続いている、一番古い業界雑誌ですが、実は欠号がありまして、印刷図書館さんという同じく印刷関係の専門図書館がありまして、印刷図書館さんと国立国会図書館さん三館合わせないと全巻揃わないという雑誌であり、そういった業界雑誌なども持っています。あと、意外に印刷というのがグラフィックと結び付きが強く、グラフィックデザイン関係の資料も幾つか持っています。古い洋雑誌の年鑑ですとか、雑誌ですと日本の『アイデア』といったものも、ちょっと欠号はありますが、幅広く持っているという状態です。

## 資料の分類について

**西口** ありがとうございます。多分、ここまでの話でも、もっと盛り上がるかなと思うのですが、私の疑問に答えていただきたいということで、変化球を投げます。公共図書館では資料の分類に対して NDC というルールで分類しています。矯正図書館さんは NDC を使うとおっしゃっていました。例えば勝手なことを言いますが、トヨタなら T、スズキなら S とつけているなど、各館の独自の資料を独自の視点で分類や、件名を入れ、より利用者の方のアクセスしやすさや、提供する際にも提供しやすさへの工夫をされているのかと思えます。小室さんからまずお願いします。

**小室** 当館の独自分類としては NDC の 900 番台、文学の番号を全く使うところがないので、900 番

台を全て自動車の分類にしています。900 が自動車の総論、910 は自動車史であるとか、あとは乗用車、外国車など、細かい分類を 900 番台でしております。

**阿部** うち、図書資料に関しては独自分類を要しております。印刷の細分化は NDC ではとてもできないので、先程ちらっと申し上げましたけど、凸版印刷や凹版印刷というのがありますので、独自分類を全てやっております。雑誌に関しては独自分類をしておりませんので、排架の際にジャンルごとに分けて排架しているという形を取っています。

**泉** 当館はどちらかと言えば医学図書館で、医学図書館は NLMC という国立医学図書館分類を使うところが多いのですが、当館の場合は、やはり医学だけではなくて、幅広く心理学から工学から様々な分野の本がありますので、やはり NDC を利用しています。特色があるというか、統計資料などもかなり多く収蔵しておりまして、毎年増えていくものですから、そこだけちょっと独自にアルファベットで分類しているという状態です。基本は NDC 分類を使っております。

**平松** 矯正図書館は十進分類法を使っていますが、やはり専門の矯正 326.5 のところは独自の細分化 326.502 とか 326.552 とか下の方まで付けて分けています。あとはさっきも言いましたように、わりと広い分野も使うので、恐らくほとんどの分類番号を使ってやっております。

**西口** NDC が基本のところと、そうでないところがあり、やはりうまくすみ分けておられるんだなと思いました。私も地域資料とかを扱う時に、全部 090 で集めていいのかとか、いろんなところで悩みながら、それでは利用者には分からないというところがあったり、自分たちも探しにくいので、独自のコレクションだったり、いろんな話になってくるとは思います。

## マスコミ対応について

**西口** さらに、そういったコレクションを使ったレファレンス事例をたくさん紹介していただきました。泉さんからはマスコミの対応で、今回のコロナの関係で流行性感冒のポスター画像をホームページに公開したということ伺いましたけれども、例えば皆さんの各図書館でマスコミ対応があると思います。私の市でも、とある事件が起こった時に、大体普段は2日とか3日かけて調べているところ、12時に電話をかけてきて、今日の夕方のニュースに発表したいから資料を探してほしい、といったことがありました。専門図書館になるとなおさらそういうこともあるのかなと思ひまして、マスコミ対応について、伺えますか？

**泉** マスコミ対応はかなり多いですね。やはり夕方のニュースで使うから3時頃に電話を掛けてきて5時頃までにといわれ、無理な時もちろんあります。あとはさっき申しましたように流行性感冒という、スペイン風邪の時のカラーポスターをホームページで公開していた関係から、それを使いたいという問合せが非常に多いのと、それに関連して、やはり様々な新型コロナ関連の取材では、本当に撮影に来たこともありました。また、新型コロナ関係だけではなく、戦前戦後の資料を多く持っておりますので、映画にするので調べたいというような問合せなども多くあります。時間を区切られるのが一番困るのと、「アレルギーの患者の数を知りたいです」とか、何にも調べないで電話をされるのはちょっと困るなど思ったりすることもありました。

**平松** 矯正図書館では、マスコミの方からも問合せがありますが、ほかの一般の方と同じように対応しています。その中でも、資料を使いたいという方はもちろんいらっしゃいまして、特に先程報告でも紹介しました石川島の人足寄場の図ですが、これはもう長谷川平蔵の鬼平犯科帳を絡めた教養バラエティーをやるときは必ず使

わせてくださいと言われるので、その場合はこちらの様式に従って書類を提出してもらって、利用できるものは利用してもらおう、というように対応しています。

**西口** やはり市立の公共図書館と違って慣れておられるなあという感じがします。私たちなんかは、マスコミから電話がかかってきただけでも、バタバタしてしまいます。専門図書館ということで狙い撃ちというか目的があって来られるので、やはりこう対応をしたらいいというのがはっきり確立されてるなという感じがいたしました。

**小室** 当館では、図書室にというよりは、博物館自体に結構来ます。マスコミからの依頼は、博物館の広報の担当を経由して図書室が持っている資料であれば図書室が答え、博物館で答えられないものは弊社の広報部に行くなど、割り振りをしてくださるんですが、図書室では結構古い写真を持っていたり、古い雑誌に掲載されている写真があったりするので、そういうものを提供することがあります。先程、印刷博物館の阿部さんも御紹介していたとおり、民間の企業は、著作権の31条で複写ができないものが多く、権利を探っていくと、結局提供できないということが多々あります。

### 専門図書館ならではのレファレンス事例

**西口** 次は、一般の方も当然来られると思いますが、最近は先にネットで調べて、ネットでは分からないから、ようやく専門図書館というのを見つけて、たどり着いて質問してくるということもあると思います。AIに尋ねたら自動で文書生成するような時代になってきた中で、図書館にたどり着く利用者に対し、これだけ調べたからようやくたどり着いた、こういうコレクションがあったからこそ答えられたといった、いろいろなお話があると思います。事例紹介の発

表はいただきましたが、私のところにたどり着いたから、何とかこのコレクションがあったからなど、印象的な事例があれば紹介いただけますか。

**平松** たどり着いたというよりは、AIではやはり回答できないのではないかという事例がありましたので、お話しします。少年刑務所における教育について調べているということで、実は教育というと一般的には小学校などの教科教育をイメージされると思いますが、刑務所における教育はまたちょっと意味合いが変わってきまして、その点を、質問者の方が理解しているのかを把握しなければ、次に進めないというところがあります。この点は、やはりまだ人間の司書でないと難しく、こちらから聞いていって、相手の求めているものを答えていくことでたどり着いたといえます。また、学生さんの場合、当館に来る時にはまだあまり情報を持っていなくて、少年院のことについて卒論を書きたいといった質問で来ます。少年院のことについてというのは、少年院の歴史なのか、今やっている教育なのか、そういうことをまず本人がどう考えているのかを探っていくというところが、ネットだけでもわからないし、AIの質問が優れてもなかなか人間には追いつかないところかなと思っています。

**西口** ありがとうございます。やはり言葉だけじゃなく、質問の奥というか、本当に聞きたいところっていうのを相談、インタビュー等しながら掘り下げていく。さらに大学の卒業論文になると公共図書館だけでは全然足りない部分があって、院生ですと、より深い情報を欲しがります。ただ言葉だけが先に走っていて、そこをしっかりと掘り下げていくということが司書の役割かなと伺いました。

**阿部** 印刷の場合、技術的なことについて実は本の著作がなかったりします。先程の例で御紹介させていただきました、「へ」と「へ」の話です

が、あれも、技術者でないと分からないこと、という面もありまして、当館の学芸員も関係してきますが、そういったオーラルヒストリー的なものが、まだこの世の中に情報源として眠っているんじゃないかと思っています。そういった情報を集めて保管、管理していくことを専門図書館がやらなくてはいけないのかなと個人的には思っていて、これからの専門図書館が必要とされる未来がここにあるのではないかと思っています。

**西口** ありがとうございます。さらに印刷博物館さんは先程の活版の例もあったように、リアルというか、体感的なものを見れるのもすごいなと思います。では、次に小室さんからお願いいたします。

**小室** レファレンスの事例紹介の時には、写真を持ってきて、この写真に載っている昔の車を探して欲しいという問合せがあります、と紹介しました。逆に、何かの本で見つけた古い日本人が乗っている車の写真を見せられて、「この写真の原資料を探しています。どこで出典されたのか、どこの本に載っていたのか、それを更に使っているのか」といった問合せが来たりします。専門図書館が持っているコレクションなどの原資料を当たるところは、インターネットの世界の中では調べられないことなのではないかなと思います。公共図書館も専門図書館も同じだと思いますが、原資料、出典っていうのはすごく大事だと思います。ウィキペディアを見て回答しても、その元になったものがどこにあるかというのを私たちは更に探して答えていると思いますが、その出典元の資料、原資料を持っているというのは図書館、専門図書館、いろんな図書館の強みなのではないかなと思います。

**西口** ありがとうございます。やはり先程言っていましたけど、特別コレクションや独自の資料を持っておられるという強みがきつとあるんだろうなと思います。泉さんお願いします。

**泉** はい、やはり全ての資料が今インターネットにあるわけではなくて、ある程度古い資料っていうのもネットに上がらないでこのままいくと思うんですが、そういうところはやはり Chat GPT とかでは網羅できないのかなと思います。うちがレファレンス事例集に上げました、蟻虫（ぎょうちゅう）卵の保有数といいますか、蟻虫検査をした中で、どれだけの有病率があつたかというような質問があつた時に、たまたま予防協会雑誌にその表が出てるということを覚えていたために、あれを探せば出てくるなというのがありました。オーラルヒストリーではないですが、経験則みたいなところがあるということと、そういうものが現在インターネットには載っていないということがあるので、少なくとも今の段階ではとてもレファレンスを全て AI ができるということにはならないのかなと思います。

**西口** ありがとうございます。YouTube とかを見ていると、「こんなレポート、チャットを引いてすぐできました」みたいなものもありますけれども、やはり利用者の真意を聞きながら、インタビューで引き出しながら本当に掘り下げていくということが大事なのかなと思います。

## 専門性の高め方

**西口** 公共図書館ですと、隣の市にも公共図書館があり、何千館と図書館があるので、つながることで専門性を高めることができます。例えば国立保健医療科学院図書館サービス室ですと唯一の図書館とおっしゃっておられましたので、自分の専門性や知識をどうやって深めていくか、皆さんどうされているんだろうという疑問が私の中でありまして、泉さんから伺えますか？お願いします。

**泉** はい、国立保健医療科学院は、公衆衛生については唯一の図書館と申し上げましたが、日本

医学図書館協会というのがあり、医学図書館としての活動に私どもも加わっております。その日本医学図書館協会の研修などに参加したり、『医学図書館』という専門誌が発行されていますので、日々、レファレンスの事例を学んだり、最近の動向を知るということを行っています。やはり他館との連携は非常に大事なのかなと思います。

**阿部** 連携といいますと、印刷というのは結構、他の産業とも密接に関連しております。例えば印刷には紙ですとか、広告ではポスターやグラフィックなどが関連しています。当館には紙関係のレファレンスのお問合せをされる方もいらっしゃる、ある程度は資料を持っていますが、専門はあくまでも印刷に関連する資料ですので、紙関係の場合は紙の博物館さんを御紹介します。加えて、アドミュージアムさんはポスターに関して豊富な資料を持っていらっしゃる、広告についてはアドミュージアムさんを御紹介したりします。先程ちょっとお話ししましたが、印刷図書館さんというところがありまして、財団法人になっているのですが、あちらは印刷の産業面に関しての資料をたくさんお持ちで、産業統計ですとか印刷業の現状などは印刷図書館さんの方が詳しく、印刷の歴史ですとか文化面に関しては、当館の方が博物館ということもあり詳しいので、実はそういった強みに違いがあり、何となくすみ分けをしているというような形にはなっているかと思います。

**西口** ありがとうございます。やはりそれぞれつながりがしっかりあるなと思います。

**小室** うちはそのなりに積極的に連携を行っているわけではないんですが、近隣の豊田市に公共図書館で豊田中央図書館というところがありまして、同じく自動車文庫、自動車コレクションを扱っていますので、たまに御挨拶に行ったり、情報交換をしたりしています。資料の貸し借りをするとかという連携まではできていませんが、



人と人とのつながりは大事にしております。あとは同じトヨタ関連ということで、同じく名古屋市にあるトヨタ産業技術記念館というところがあり、そこも大きな図書室を持っていますので、たまにスタッフ間で情報交換をして、お互いに刺激を受けています。

**平松** 矯正図書館は刑事政策という分野ではほかにはちょっとないものですから、唯一の図書館となっております。他の図書館との連携というのはもうほとんどありません。ではどのように専門性を高めていくかということ、本当に一つのレファレンスで一生懸命資料を探っていくことで、まず自分たちの専門性を高めていくことと、あと、矯正協会というところには、矯正施設の元勤務者もおりますので、その方から現場のことを聞き、雑談中に聞いたことも覚えておいて、知識を深めています。それでも分からないことは勤務経験者に話を聞き、また、その勤務経験者の方からお知り合いの現職の方についてもらうということはたまにあります。そのようなやり方で専門性を高めております。

**西口** ありがとうございます。それぞれがやはり協会などつながるところをしっかりと持っておられて、つながりながらお互い専門性を高めているというのは、公共図書館と一緒にですね。もっとニッチに入り込んで、書庫で本を読んでおられるだけかなとか、専門図書館のイメージが勝手にありますが、そうではなく、やはりつながりを持っていて、レファレンス協同データベースに参加いただきながら、さらにつながって専門性を高めていければいいなと思います。

## 情報の更新について

**西口** お互いが質問したいことを事前に聞いていたので、そちらの方に行きたいと思います。これは専門図書館とは関係なく出る質問だと思いますが、印刷博物館の方からレファ協公開済み

のレファレンス事例の情報のアップデートについて、登録したけれど、その後新しい資料が出てきたので入れていきたいなということが多分あると思いますが、そのあたりどのようにやっておられるかなということで、泉さん、何か工夫とかされてますか。

**泉** あまりやっていない状況です。もちろん、同じテーマで質問があつて、以前と違っているということになれば更新すると思いますが、今のところあまり丁寧にそこまでやる時間が取れず、現在のところ更新していません。

**小室** 新しい情報が追加された時ですよ。積極的に追加していています。下の方に「いついつ追加しました」みたいなコメントを付けて追加作業をしております。

**西口** 更新しているということですね。

**小室** 新しいページを起こすという選択肢も考えましたが、それよりもきつと追加をしていった方が、後で見た時に、最初こういうものしかなかったけれども、ここを発見したんだというスタッフの勉強になるのかなと思って追加の更新をしています。

**西口** それは本当にすごいことだと思います。なかなか私たちも上げばなしが多くなってしまっていますが、その後の更新というのができてなくて、それをしっかりやっておられるというのはすごい。常日頃から気にしておられるのでしょうか。

**小室** 毎月、これ上げていいですか、という確認の作業が他のスタッフから入るので、その時に「同じようなものはなかったですか？」という質問を投げかけます。お客様から来るレファレンスは大概同じようなものが当館の場合が多いので、そこには気をつけながらチェックしています。

**西口** 同じような質問が来たら、その回答をなぞってやるのではなくて、さらに御自身やスタッフの皆さんでアップデートをして、また新し

い資料を探しに行くのですね。わかりました。  
矯正図書館の方でしょうか。

**平松** 当館では、ほとんどアップデートを積極的にやるということはありません。コメントがついた時に、見返して調べてみて、あれこれ追加できることが分かったらアップデートしています。

**西口** アップデートを意識されている館があるというのは、すごく嬉しいことです。やはり情報は変わっていきますので、その中で新資料に対してしっかり調査して、またそれだけの資料を持っておられるというのがすごいと、まさにコレクションのすごさを感じました。

## 最後に

**西口** 今日4人の方から発表をしていただきました。独自の資料を使ってレファレンスにしっかり答えておられ、また、アップデートもされていて、すごくしっかりされているなということを実に本心を持って思いました。そこで、皆さんせっかくの機会ですので、レファレンス協同データベースを普段使っていて、こんなことをちょっと事務局さん頑張ってもらいたいとか、それと最後に、せっかく専門図書館で集まっています、なかなかこういう機会はないと思いますので、自分の館をPRしていただければと思います。では、発表順に今度はまた泉さんからお願いします。

**泉** レファレンス協同データベースをしっかりとやってくれている職員は実は私ではないので、データベースそのものについては特に要望はなく、とてもよくできているのではないかと思います。自館のPRという意味では、私共保健医療科学院という名前なので、恐らく医療に関するものしか持っていないと思われているかなと思いますが、戦前昭和13年にできた公衆衛生院図書館からの資料を引き継いでおりまして、社会福祉、

社会医療、保健社会医学みたいなどころのものや、戦前の資料、満鉄資料などを若干持っています。戦前の社会保健、社会福祉関連の資料をお探しの際にも、当館をぜひ御利用いただければ得るところがあるのではないかと思いますので、そういうものを調べる先生方がいらっしゃいましたら、どうぞ活用なさってください。

**西口** ありがとうございます。では、次の発表者の矯正図書館の平松さんをお願いします。

**平松** レファレンス協同データベースでコメントがついた時には、メールでその館にお知らせをいただきますが、それ以外に実は一つお願いしてできればと思うのですが、当館でしたら「刑務所」のようにキーワードを登録しておく、それに関するデータが登録されたら知らせてくれるというようなものを考えていただくと、私自身は嬉しいなと思います。というのも、探してみると、やはり公共図書館さんでも、地元のかつて刑務所があったところ、そこに昔何かあったんだろうとか、監獄はどここの場所にあったのかとかを一生懸命調べてる図書館があって、その公共図書館でなければ所蔵していない資料の解説なんかもあったりするもので、当館にとってもとても有益な情報になっています。ただ、そういったデータについてこちらから毎回チェックするのも大変なので、お知らせいただければ嬉しいなと思っております。

**西口** ありがとうございます。では小室さんをお願いします。

**小室** 私も泉さんと同様、常にレファ協に登録しているスタッフというわけではないので、要望はそんなにないので恐縮ですけれども、今回このように専門図書館に関心を持っていただけて、フォーラムに招いていただいたことを本当に感謝しています。いろんな図書館関係の皆様には私たちの館のPRができたのではないかなと大変嬉しく思っています。ありがとうございました。先程も目一杯PRはさせていただいたのですが、

トヨタ博物館という名ではありますが、トヨタの車の方がむしろ少ないんじゃないかというくらい、いろいろな国々の車や国産車や、自動車の歴史を本当に深く、楽しく知ることのできる博物館です。博物館に来て、レストランで御飯を食べて、図書室に来て、帰りにカフェによって、ショップでお土産を買って、1日楽しめる場所だと思いますので、ぜひ愛知県にお越しの際は来ていただきたいなと思います。よろしくお願ひします。

**阿部** 印刷博物館は、レファ協の作業は基本的に私がやっていて、要望というのはあまりないのですが、気軽に参加館同士で交流できるチャットみたいな機能があるといいなと思っています。それこそ専門図書館ですとなかなか知られていないということがありますので、「こういったことについて御存じの方いらっしゃいませんか?」と簡単かつ手軽にキーワードで引っ掛けられるようなことができればいいのかと思っています。印刷博物館の宣伝ですが、やはり印刷博物館はあまり知られていないところが大きいと思っています。今回こういう機会をいただけたことは私個人としましてもすごくありがたいです。先程ちらっと申し上げましたけれども、ここにあるこの机も、壁紙とかも印刷です。印刷ってというのはものすごく幅広いんですね。です

ので、これはどこに聞けばいいのかなんて思った時に、パッケージのことだったり、文字のことだったり、それこそグラフィックデザインのことだったり、いろいろあると思いますが、印刷博物館があったなということを思い出していただければと思います。ちなみにうちで多分一番レファレンス関係で困るのが出版史系で、出版史・出版関係の専門図書館ってないんですよ。なので、出版史のことも頑張っけて引き受けますので、もしそれだ、と思った時に印刷博物館にいらしていただければと思います。博物館自体もすごく面白くて1日いられる場所ですので、ぜひ御来館いただければと思います。ありがとうございました。

**西口** 皆さんありがとうございました。専門図書館さんの話を聞いていて、皆さんの一つ一つのレファレンス回答がもう調べ方マニュアルだと本当に思います。レファレンスだけではなく、皆さんの回答の手順が、本当にそれぞれの専門分野の調べ方のマニュアルにもなっていると思いますし、ぜひ皆さんがお持ちの資料群などをどんどん公開し、PRしていただいて、みんなの知りたい好奇心をくすぐっていただいたらなと思います。今日はありがとうございました。

## 第 18 回レファレンス協同データベース事業フォーラム記録集

2023 年 8 月 2 日 発行

編集 国立国会図書館関西館図書館協力課  
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3  
TEL : 0774-98-1475 FAX : 0774-94-9117

発行 国立国会図書館  
〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1